

持って、歩いて、ひもとこう

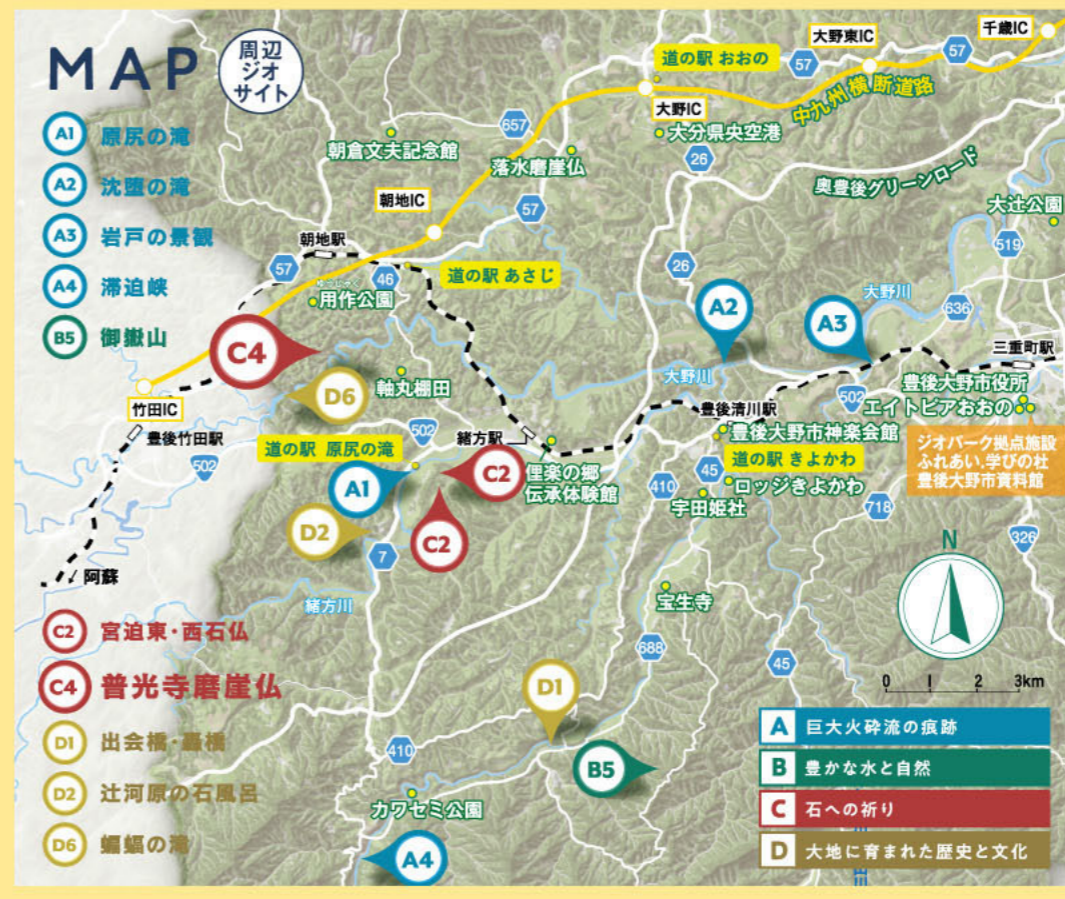


BUNGOONO GEOSITEFILE
豊後大野ジオサイトファイル

普光寺磨崖仏

FUKOJI MAGAIBUTSU / ASAJI

おおいた豊後大野ジオパーク
Oita Bungoono Geopark



周辺情報



道の駅 あさじ
大分県豊後大野市朝地町板井迫 1018-1
☎0974-64-1210 📺92 台
🕒9:00~17:30
新鮮野菜から工芸品などの幅広い特産品が並ぶ。レストランでは「朝地牛」を使ったメニューが味わえる。

おおいた豊後大野ジオパーク推進協議会 <https://bungo-ohno.com>
〒879-7198 大分県豊後大野市三重町市場 1200 番地 豊後大野市商工観光課内
TEL 0974-22-1001 (代表) FAX 0974-22-3361

おおいた豊後大野ジオパークガイド
TEL.080-2708-7809



大きくやさしい
お不動様。

FUKOJI MAGAIBUTSU / ASAJI

豊後大野ジオサイトファイル

普光寺磨崖仏

鎌倉時代に造られたとされる普光寺は普光山筑紫尾寺と呼ばれていました。しかし江戸時代初期に筑紫尾が畜生に聞こえるので、筑紫尾を山号として普光寺と名前が改められました。この寺には巨大な磨崖仏があります。像高は8mとも12mとも言われ、全国でも最大級の磨崖仏です。およそ800年前に作られたとされており、中央の巨大な仏様が不動明王、その両脇、向かって右に矜羯羅童子、左に制多迦童子があります。不動明王とは憤怒の相、つまり怒った顔をしているものですが、この磨崖仏は長年風雨にさらされ丸く優しい表情になっていて、大きな不動明王ですがとても親しみもてる姿となっています。

12万年前の岩と お不動様。

熊本県にある阿蘇火山は、これまでに4回の巨大噴火を起こしています。おおいと豊後大野ジオパークには、このうち4回目となる約9万年前の巨大噴火による火砕流が冷えて固まった溶結凝灰岩が広く分布し、たくさんの磨崖仏が彫られています。これに対し、普光寺の磨崖仏は、それより古いおよそ12万年前の阿蘇火山3回目の巨大噴火による火砕流が冷えて固まった溶結凝灰岩に彫られています。この溶結凝灰岩は比較的硬く、ひび割れもほとんどはいつていないため、このような大きな磨崖仏を彫ることができたと考えられています。



この丸いお顔は当初からそうであったとは考えにくく、約800年もの間風雨にさらされたためにとても優しい表情になったと考えられます。

1 普光寺磨崖仏

普光寺磨崖仏は不動明王を中心とした三尊像で、中央の巨大な仏像が不動明王で、向かって右に矜羯羅童子、左に制多迦童子が配置されています。

不動明王は、弁髪を垂らし、右手に剣、左手に竊索をさげ、憤怒の相で表現されますが、全体的に丸い印象があり憤怒の相は伝わりません。しかし、口元には確かに上下に牙がでており、こうみえても怒っていることがわかります。

この地域ならではの、やわらかい岩に掘られたからこそのお顔なんだね。

こんなにやさしいお顔なのに、ほんとは怒っているんだね。



ジオガイドさん

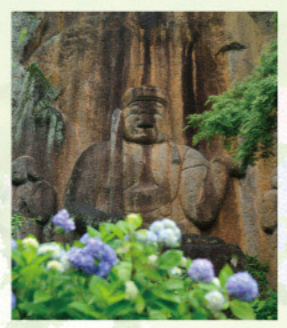
普光寺



普光寺と磨崖仏と紫陽花

普光寺は、別名「紫陽花寺」と呼ばれるほど、たくさんの紫陽花が植えられています。梅雨時期になるとたくさんの紫陽花の花に埋もれた磨崖仏を見ることができます。

これらの植生は、お寺と地域の方により守られています。



足元注意

階段注意



カメラポイント
表紙の撮影はここから撮影したものです。

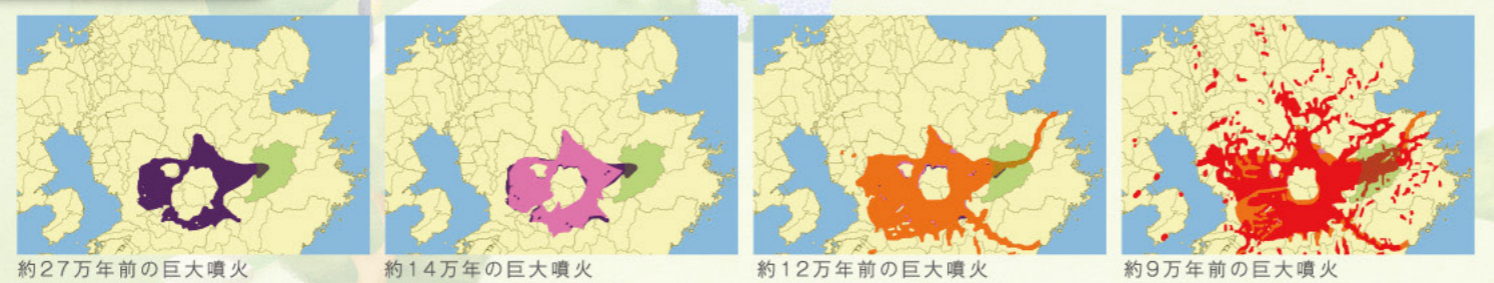
2 大きな仏龕と 3 投込堂

磨崖仏の左手の大きな仏龕には、大日如来を祀った祠と懸作り舞台があり、その奥には投込堂「護摩堂」があります。これらは、江戸時代になってから造られたと言われていて、普光寺が長く修験の地として活躍したことを表わしています。この岩窟内の岩肌にはたくさんの黒い点が見えますが、これはスコリアと呼ばれる軽石の仲間で、12万年前の3回目の火砕流が固まった溶結凝灰岩の特徴です。

12万年前に自然が作り出したもの、修験という人の営みとあわさってきた普光寺の境内、両者は意図せず巡り合いお寺の雰囲気をつくりだしています。

阿蘇火山巨大噴火の痕跡、溶結凝灰岩の分布

阿蘇火山は過去に4回、大きな噴火をおこしたとされています。その時発生した火砕流の規模は、冷えて固まり残された溶結凝灰岩の分布によってわかります。



約27万年前の巨大噴火

約14万年前の巨大噴火

約12万年前の巨大噴火

約9万年前の巨大噴火